



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。



タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A8 グローバル 社会へのパ スポート	20140586017301	●グローバル 社会へのパス ポートⅠ(東 西文化交流の 歴史)	和	E	菅原 潤	1年,2年,3年,4年	後期	火 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A8 グローバル 社会へのパ スポート	20140586017701	●グローバル 社会へのパス ポートⅠ(国 際的視点に 立った法と政 治)	和	E	嶋野 武 志	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール Ⅰ科目-A8 グローバル 社会へのパ スポート	20140586018101	●グローバル 社会へのパス ポートⅠ(国 際的視点に 立った経済)	和	E	須齋 正 幸	1年,2年,3年,4年	後期	火 1	～





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A8 グローバル社会へのパスポート**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586017301	科目番号	05860173
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートⅠ(東西文化交流の歴史)		
編集担当教員	菅原 潤		
授業担当教員名(科目責任者)	菅原 潤		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅原 潤, 深見 聡, 姫野 順一		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	suga@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部		
担当教員TEL	095-819-2730		
担当教員オフィスアワー	火 14:30～16:00		
授業の概要及び位置づけ	この講義は、長崎を基点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」（Cross Intellectual History）を掘り下げ、国際交流における文化的・歴史的側面を理解し、国際人としての教養に基づいた態度と倫理の形成を図ろうとするものです。講義 では自主性、思考力、判断力および表現力を尊重します。		
授業到達目標	長崎を中心とする海外交渉の歴史の概略を理解し、異文化交流における接点における摩擦や解決努力の苦労、双方向への理解の浸透といった国際的な感覚の習得を目標とします。		
授業方法（学習指導法）	歴史資料や視聴覚教材を用いて東西文化の交流の諸相を解説します。また資料の現地調査や見学なども織り交ぜます。		
授業内容	回	内容	
	1	近世中期までの長崎における洋学の動向	
	2	毛氈から見た日・蘭・清の交易 <特別講師：砂崎素子先生>	
	3	寛政の改革以後の外交方針の変化と技術導入の関係 <特別講師：砂崎素子先生>	
	4	日本観察者としてのシーボルト <特別講師：宮坂正英先生>	
	5	シーボルトを支えた長崎 <特別講師：宮坂正英先生>	
	6	シーボルトの眼！川原慶賀 <特別講師：原田博二先生>	
	7	幕末開港と洋学：坂本龍馬の周辺	
	8	写真術の伝来と伝播	
	9	長崎遊学と西国雄藩の活躍	
	10	開明君主・島津斉彬と近代化事業	
	11	世界遺産候補地「明治日本の産業革命遺産－九州・山口と周辺地域－」のこれから	
	12	洋学史から教養論へ－大正期における教養主義の成立	
	13	昭和初期における修養主義の普及とその影響	
	14	戦後の教養論の低迷	
	15	3・11以後の教養論と国際交流	

	16	まとめ
キーワード	東西文化交流、日欧交渉史 長崎学 知性史 異文化接触	
教科書・教材・参考書	特になし	
成績評価の方法・基準等	毎回配布される出席確認を含めたレポート評価の集計による。	
受講要件（履修条件）	特になし	
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A8 グローバル社会へのパスポート**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586017701	科目番号	05860177
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートⅠ(国際的視点に立った法と政治)		
編集担当教員	嶋野 武志		
授業担当教員名(科目責任者)	嶋野 武志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	嶋野 武志		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	教育学部,経済学部,薬学部,水産学部		
担当教員Eメールアドレス	shimano@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	産学官連携戦略本部		
担当教員TEL	095-819-2876		
担当教員オフィスアワー	11:00～17:00		
授業の概要及び位置づけ	人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければならない。しかも、国際的交流が飛躍的に増加すると考えられる21世紀においては、自らが生活する国・地域の法のみならず、異なる歴史・文化を有する国・地域の法についても理解できる能力を養っておくことが重要である。 この科目においては、国際法に関わる交渉に参加した経験を有する教員の指導の下、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、さらには国際社会を規律する国際法を概観し、法の多様性を理解するとともに、そうした法を生み出す場である政治の現実についても学ぶことを通じ、グローバル化が進展する世界において必要とされる人間の多様性を理解することのできる能力を養う。		
授業到達目標	法や政治の問題を考えることを通じて、法、さらには人間の多様性を理解しうる能力を身に着けることにより、そうした多様性を前提としながらも、社会を安定的に営んでいくために必要な「利害調整能力」の基礎を確立する。		
授業方法（学習指導法）	法や政治の問題を考えるのに際しては、まず基本となる知識が不可欠なため、基本的には講義形式を採用するが、法や政治に関わる問題が如何に身近なものであるかを実感してもらうとともに、現実の問題に対して、如何に多様な解決方法があるのかを知ってもらうために、具体的な例を討議するグループディスカッションも行うこととする。		
	可能な限り関連時事問題の解説を行うので、以下の予定を変更する可能性があることに留意されたい。また、受講生の人数を踏まえたグループディスカッションの導入も検討するため、その関連での変更もありうることを申し添える。		
	回	内容	
	1	導入部分として、そもそも法とは何かを学ぶ。 まず我々の生活や社会のどのようなところに法が登場するのか、そうした法はどのように形成されるのかを学ぶ。	
	2	法についての様々な思想や歴史を学ぶ。 これにより、法とは誰かから与えられるものではなく、社会が生み出していくものであることを理解する。	
	3	民事に関する法について学ぶ。（民事法1） まず財産法について、身近な取引や契約、交通事故に関わる損害賠償などの実例について、どのような問題がどのように解決されているかを学ぶ。	

授業内容	4	民事に関する法について学ぶ。（民事法2） ここでは、家族法について、結婚・離婚、相続などの実例を通じて、どのような問題について、どのような解決が行われているかを学ぶ。
	5	次に企業活動に関する法について学ぶ。 ここでは、企業とは何か、企業は誰によってどのように作られるのか、その取引においてどのような問題が生じるのかについて学ぶ。
	6	刑事に関する法について学ぶ。 人が罰せられるのはどのような場合か、何故罰せられるのか、罰する場合の手続はどのようなになっているのかなどを知ることにより、刑事法の基礎を学ぶ。
	7	国家に関する法である憲法・行政法を学ぶ。 ここでは、国家の運営、国家と国民の関係などについて学ぶ。
	8	その他の法について学ぶ。 労働法や環境法など、現代において重要性を増している分野の法を紹介する。
	9	第7回が終了した時点でレポートを作成し、そのうちのいくつかを題材として議論を行う。 これにより、国内法に関わる問題であっても、極めて多様な考え方が成り立ちうることをあらためて実感する。
	10	次に、英米法やヨーロッパ法など、代表的な外国法を概観する。これにより、歴史や文化が異なる国・地域では、類似の問題であっても、異なる解決が行われることを理解する。
	11	国際社会を規律する国際法について学ぶ。 国内法と国際法の共通する部分と、紛争解決システムなどの異なる部分を理解する。
	12	法に対する一定の理解を前提に、法を生み出す政治の現実を学ぶ。 まず身近なところとして、国内法について、現実には如何なる「利害調整」が行われているかを学ぶ。
	13	ここでは、我が国の政治史を概観し、法を生み出す政治における「利害調整」のあり方も時代により異なることを理解し、法、さらには人間の多様性を学ぶ。
	14	国際法を生み出す国際政治の現実を学ぶ。 特に、各国の利害が正面から衝突する国際通商交渉を例にとり、国際的な場で如何なる「利害調整」が行われているかを学ぶ。
	15	国際政治についても、時代により、地域により、様々な「利害調整」が行われてきたことを知り、法、さらには人間の多様性を学ぶ。
	16	試験を行う。
キーワード	法、法の背景としての歴史・文化、法を生み出す政治、利害調整、多様性	
教科書・教材・参考書	特になし。（但し、授業開始後、必要に応じて指定することはある。）	
成績評価の方法・基準等	レポート及び試験を通じて行う。 法、さらには人間の多様性を理解する態度が見られるかどうかを特に評価する。	
受講要件（履修条件）	特になし。（但し、我が国の法が重要な題材となるため、日本語を解せることが望ましい。）	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	特になし。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A8 グローバル社会へのパスポート**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586018101	科目番号	05860181
授業科目名	●グローバル社会へのパスポートⅠ(国際的視点に立った経済)		
編集担当教員	須齋 正幸		
授業担当教員名(科目責任者)	須齋 正幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	須齋 正幸		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	1年から4年		
担当教員Eメールアドレス	msusai@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部 東南アジア研究所 3F		
担当教員TEL	095-820-6356		
担当教員オフィスアワー	火曜日 12時から 13時		
授業の概要及び位置づけ	国際社会の課題を理解、議論するためには、政治、経済、法律の基礎知識がその基盤となります。この講義では、その中で、経済の基礎知識を教授します。		
授業到達目標	貿易の意義、為替レートと我々の生活など、経済学の理論に基づいて議論する意味を理解する。		
授業方法（学習指導法）	基礎知識は講義により涵養、それをもとにグループディスカッション、ディベートなどを行う。		
授業内容	1）ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎事項を最初に講義する。 ①ミクロ経済学の基礎知識を用いて、貿易が我々の生活に与える意義を理論的に検討する。 ②マクロ経済学の基礎知識を用いて、海外の経済の影響を考慮した場合の経済政策の効果（国内のみに注目した効果との違い）を検討する。 2）1）での議論をもとに、たとえばTPPの導入など、国際経済に関わる実際の事象を対象に、その意義、評価などをグループ（8名から10名）において議論する。この過程を通じて、チームワークの意義も同時に理解する。 3）グループディスカッションの成果を用いて、グループ対抗のディベートを行い、議論の構築の仕方、議論の実践、またその準備の過程でのチームワーク、チームにおける個々の役割の意味などを理解する。		
キーワード	経済学、国際経済		
教科書・教材・参考書	テキストは使いません 必要な資料は適宜指示します		
成績評価の方法・基準等	レポート（40％）、グループワーク並びにディベート（60％）		
受講要件（履修条件）	なし		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



